プログラム

年号は初出年（※はヒット年）

第一部・・大正から昭和 10 年代まで　～大正ロマン、昭和モダン、そして戦争～

1. ゴンドラの唄・・・・・・・　大正 4（1915）　作詞：吉井勇　　作曲：中山晋平　　編曲：林光
2. さすらいの唄・・・・・・・　大正 6（1917）　作詞：北原白秋　作曲：中山晋平　編曲：岩河智子
   ★篠笛：畑中久美子
3. 船頭小唄・・・・・・・・・　大正 10（1921）　作詞：野口雨情　作曲：中山晋平　編曲：岩河智子
4. 影を慕いて・・・・・・・・　昭和 6（1931）　作詞・作曲：古賀政男　編曲：杉本龍之
   ★ギター：仙田文江　城戸久夫
5. 鈴懸けの径・・・・・・・・　昭和 17（1942）　作詞：佐伯孝夫　作曲：灰田有紀彦　編曲：熊谷晃

第二部・・昭和 20 年代　～終戦から復興へ～

6. 長崎の鐘・・・・・・・・・　昭和 24（1949）　作詞：サトウハチロー　作曲：古関裕而　編曲：杉本龍之
7. あざみの歌・・・・・・・・　昭和 24（1949）　作詞：横井弘　作曲：八洲秀章　編曲：杉本龍之
   ★ハープ：溝入千代子　ハーモニカ：黒田彩
8. ラ・メール・・・・・・・・　昭和 18（1943）　※昭和 21（1946）　作詞・作曲：C.トレネ　編曲：河西保郎
9. 愛の讃歌・・・・・・・・・　昭和 25(1950) 英詞:M. デビッド/和訳:音羽たかし 作曲:M.モノー 編曲:河西保郎
   ★S:繁田早苗　A:仙田文江　T:梶原圭介　Bs:鈴木克巳　鍵盤ハーモニカ:畑中久美子
10. お祭りマンボ・・・・・・・　昭和 27（1952）　作詞・作曲：原六郎　編曲：信長貴富
    ★鉦（チャンチキ）：畑中久美子
11. 高原列車は行く・・・・・・　昭和 29（1954）　作詞：丘灯至夫　作曲：古関裕而　編曲：熊谷晃

ご一緒に歌いましょう！

＜休憩＞

第三部・・昭和 30 年代　～高度経済成長の幕開け　欧米文化と豊かさへの憧れ～

1. 慕情・・・・・・・・・・・・　昭和 30(1955) 作詞:P.F.ウェブスター　作曲:S.フェイン　編曲:河西保郎
2. オーラリー・・・・・・・・　江戸末期(1861) 作詞:W.フォスディック　作曲:G.ポールトン　編曲:西脇久夫
   （ラブミーテンダー・・・・　昭和 31（1956）　作詞：エルビス・プレスリー　作曲：G.ポールトン）
3. ムーン・リバー・・・・・・　昭和 36（1961）　作詞：Ｊ.マーサ　作曲：H.マンシーニ　編曲：河西保郎
4. 北上夜曲・・・・・・・・・　昭和 16(1941) ※昭和 36(1961) 作詞:菊地規　作曲:安藤睦夫　編曲:杉本龍之
   ★ハーモニカ：黒田彩

第四部・・昭和 40 年代から昭和の終わり（64 年）まで　～モーレツからビューティフルへ～

5. ブルーシャトー・・・・・・　昭和 42（1967）　作詞：橋本淳　作曲：井上忠夫　編曲：青島広志
6. 夜霧よ今夜も有難う・・・・　昭和 42（1967）　作詞・作曲：浜口庫之助　編曲：宇田川安明
7. しおさいの詩・・・・・・・　昭和 46（1971）　作詞・作曲：小椋佳　編曲：河西保郎
   ★ハープ：溝入千代子　レインスティック（波擬音）：山崎康子
8. 千曲川・・・・・・・・・・　昭和 50（1975）　作詞：山口洋子　作曲：猪俣公章　編曲：杉本龍之
   ★鍵盤ハーモニカ：畑中久美子
9. 愛燦燦・・・・・・・・・・　昭和 61（1986）　作詞・作曲：小椋佳　編曲：信長貴富
10. 知床旅情・・・・・・・・・　昭和 45（1970）　作詞・作曲：森繁久彌　編曲：青島広志

ご一緒に歌いましょう！　★鍵盤ハーモニカ:畑中久美子　★ギター:仙田文江　城戸久夫　★ハープ:溝入千代子

次ページに曲の背景・エピソード

曲の背景・エピソード　年号は初出年（※はヒット年）　年代順に表記。プログラムとは一部順番が異なります。

■第一部　大正から昭和 10 年代まで　～大正ロマン、昭和モダン、そして戦争～

1. ゴンドラの唄・・・・大正 4(1915)　作詞:吉井勇　作曲:中山晋平　編曲:林光

島村抱月が主宰する劇団「芸術座」が、大正 4 年に上演したツルゲーネフ（ロシア）の戯曲「その前夜」の劇中歌。ヒロイン・松井須磨子が扮する貴族の令嬢エレーナは、ブルガリア独立運動の志士である青年を夫に選び、革命に参加するためブルガリアへ向かいます。その途中、イタリアのヴェネツィアで船を待つ場面でゴンドラの唄が歌われたそうです。歌は人気を博し、翌年、セノオ音楽出版社から出版された楽譜の表紙は竹久夢二。今から 101 年前に生まれた、大正浪漫の香り高い名曲です。

2. さすらいの唄・・・・大正 6(1917)　作詞:北原白秋　作曲:中山晋平　編曲:岩河智子

「芸術座」が上演したトルストイの「生ける屍」の劇中歌で、ジプシーのマーシャ（松井須磨子）が歌いました。北原白秋が流行歌の歌詞を手掛けた最初の曲で、哀愁を帯びた中山晋平の作曲により爆発的人気を呼び、またたく間に全国に広まりました。

3. 船頭小唄・・・・・・大正 10(1921)　作詞:野口雨情　作曲:中山晋平　編曲:岩河智子

大正 10 年、民謡「枯れすすき」を作詞した野口雨情が中山晋平に作曲を依頼。翌 11 年、「船頭小唄」と改題して発表。大正 12 年、女優・中山歌子がレコーディング。演歌師が町辻でヴァイオリンの伴奏に合わせて盛んに唄い、巷に広まってゆきました。同年、この詩を主題歌に、日本初のスター女優・栗島すみ子の主演で、わが国最初となる歌謡映画「船頭小唄」が封切られ空前の大ヒットに。意外にも、映画のストーリーはハッピーエンドだったそうですが、その年9月に関東大震災が起こると、その暗い曲調が震災を招いたかのように言われたそうです。しかし、日の当たらぬ境遇をも照らすお月さんの情景や、貧しくとも寄りそって生きる者同士の温もりは、時代を超えて人の心に沁み入ります。哀調ばかりではない格調も湛えた曲として、今年で 95 年の長きにわたり歌い継がれてきました。

4. 影を慕いて・・・・・・・・・・昭和 6(1931)　作詞・作曲:古賀政男　編曲:杉本龍之

昭和初期の深刻な不況の中で、将来への不安や苦学の疲れに加え、失恋の痛手を負った明治大学生・古賀政男は、友人と宮城県の青根温泉を訪れ、絶望のうちに自殺をしようとこの地を彷徨いましたが、彼を探す友人の呼び声で我に返り思いとどまります。その夜、友人と泥酔した政男は、音楽一筋で生きていく決心を固め、帰京しこの時の苦しさを歌にしました。昭和 7 年、新譜で日本コロムビアから藤山一郎の歌唱によって発売され大ヒット。満州事変、5.15 事件など暗い世相を背景に人々の心を捉えました。

5. 鈴懸けの径・・・・・昭和 17(1942)　作詞:佐伯孝夫　作曲:灰田有紀彦　編曲:熊谷晃

レコード発売は太平洋戦争開戦から約 10 か月後の昭和 17 年9月。同年4月、早くも本土初空襲があり、海外での敗戦が相次ぐも、情報操作によって国民の多くが戦勝気分に酔っていましたが、発売のほぼ1年後の昭和 18 年 10 月、明治神宮外苑競技場で学徒出陣の壮行会が挙行されました。それまで徴兵を延期されていた学生が召集され、特攻隊に配属された学生も多くいました。「鈴懸けの径」は戦時色の感じられないモダンな三拍子の学園ソングでしたが、特攻隊員の一番の愛唱歌として毎夜、歌われていたといいます。戦後は、舶来音楽ジャズブームの中、クラリネットの鈴木章治がスイングジャズに編曲し、昭和 30 年前後に大ヒット。鈴懸けとはプラタナスのこと。

出来事年表（大正 1~昭 19）

大 1(1912)　明治天皇崩御　大正に改元
大 2(1913)　鉛筆が売り出される
「宝塚唱歌隊」誕生（宝塚歌劇団の前身）
島村抱月、劇団「芸術座」を結成
大 3(1914)　第一次世界大戦勃発
東京駅開業
大 4(1915)ゴンドラの唄
大 6(1917)さすらいの唄　ロシア革命
大 7(1918)　米騒動　第一次世界大戦終結
スペイン風邪流行で島村抱月、急死。
大 8(1919)　カルピスが売り出される
高島屋、松屋、白木屋が開業
大 9(1920)　国際連盟設立
上野公園で日本初のメーデー
大 10(1921)船頭小唄
大 12(1923)　関東大震災
大 14(1925)　ラジオ放送開始
治安維持法制定　普通選挙法成立
大 15(昭 1)　日本放送協会（NHK）設立
12 月　大正天皇崩御　昭和に改元
昭 2(1927)　金融恐慌　東京に地下鉄開通
大手レコード会社設立（コロンビア、ポリドール、ビクター）
昭 3(1928)　日本初の普通選挙（男性のみ）
昭 4(1929)　世界恐慌始まる
昭 6(1931)影を慕いて
満州事変　国産トーキー完成
昭 7(1932)　5.15 事件
昭 8(1933)　日本が国際連盟を脱退
昭 11(1936)　2.26 事件
昭 13(1938)　東京五輪中止
昭 15(1940)　日独伊三国軍事同盟
昭 16(1941)　真珠湾攻撃　太平洋戦争開戦
昭 17(1942)鈴懸けの径
ミッドウェー海戦
ナチス、フランス全土を占領
昭 18(1943)　学徒出陣
昭 19(1944)　サイパン島陥落　パリ解放
神風特攻隊　日本本土空襲本格化

■第二部　昭和 20 年代　～終戦から復興へ～

6. 長崎の鐘・・・・昭和 24(1949)　作詞:サトウハチロー　作曲:古関裕而　編曲:杉本龍之

永井隆博士

「長崎の鐘」とは、被爆した浦上天主堂の煉瓦の中から掘り出された鐘のこと。原爆で妻を亡くし、自らも爆心地に近い長崎医科大学で重傷を負った永井隆助教授が原爆の惨状を克明に描いた随筆は、GHQ の出版許可がなかなか下りませんでした。昭和 24 年 1 月にようやく出版されると、空前のベストセラーに。同年 7 月、同書をモデルとした歌謡曲が発売されて大ヒット。鎮魂と打ちひしがれた人々の再起を願うサトウハチローの詞に古関裕而が曲を付け、藤山一郎が格調高く歌い上げました。

7. あざみの歌・・・・・・昭和 24(1949)　作詞:横井弘　作曲:八洲秀章　編曲:杉本龍之

戦災で四谷の家を焼かれ、突然の招集と終戦に翻弄された横井弘(18 歳)は、傷心のうちに母と二人、知人を頼って長野県下諏訪へ。日々、湖畔や山々を散策し、詩作の道に生きる決意をしました。八島湿原一面に咲く素朴なアザミの姿に、秘めたる夢を一筋に貫く女性像を重ねて描いた一遍の詩が「あざみの歌」でした。一方、作曲家・八洲秀章は、未発表の自作曲に相応しい歌詞を探していたところ、「あざみの歌」の詩と劇的な出会いを果たし、作詞者の横井を探し出します。終戦から 4 年、互いに相応しい詩と曲が出会って誕生した「あざみの歌」はラジオ放送によって広まり、国民的愛唱歌となりました。

8. ラ・メール・・昭和 18(1943)　※昭和 21(1946)　作詞・作曲:C.トレネ　編曲:河西保郎

終戦の翌年にフランスで大ヒットしたシャンソンの名曲。ラ・メール(海)の美しい情景が描かれています。シャルル・トレネが曲を書いたのは、まだフランスがナチスの占領下にあった 1943 年でしたが、パリが解放された後、トレネの伴奏ピアニストのアルベール・ラスリーが編曲をして、トレネが歌いました。ナチスから、祖国の美しい風景を取り戻した喜びの中での大ヒットとなりました。青春隊は、全編フランス語で歌います。

9. 愛の讃歌・・昭和 25(1950)　英詞:M. デビッド/和訳:音羽たかし　曲:M.モノー　編:河西保郎

エディット・ピアフが詩を書き、終戦から5年後にレコーディングされたシャンソンの名曲。日本で最初に歌われたのはその 2 年後。シャンソンショー「巴里の唄」の劇中歌として越路吹雪が歌うことになり、越路のマネージャーだった岩谷時子が訳詞。ヒットメーカー岩谷の初の作詞。青春隊は、今回、英訳された歌詞の和訳版を歌います。

10. お祭りマンボ・・・・・・・・・昭和 27(1952)　作詞・作曲:原六郎　編曲:信長貴富

小柄で “小さな雀”と呼ばれたエディット・ピアフが、愛の讃歌を世界的ヒットさせた頃、日本では“ひばり”という名の歌姫が「お祭りマンボ」を大ヒットさせていました。日本橋馬喰町出身の原六郎が、戦後間もなく世界中で大流行していたマンボのリズムに乗せ、お祭り好きな江戸っ子気質をテーマに作曲。戦争で途切れていた祭りが次々に再開され、「お祭りマンボ」がヒットした昭和 27 年は「神田祭」が復活しました。

11. 高原列車は行く・・昭和 29(1954)　作詞:丘灯至夫　作曲:古関裕而　編曲:熊谷晃

作詞の丘灯至夫は、子供の頃、湯治のために何度も家族と乗った沼尻鉄道沿線の裏磐梯や白樺の風景を思い浮かべて詩を書きましたが、作曲の古関裕而は、スイスあたりの高原を走るハイカラな列車のイメージを念頭に、軽快な歌謡曲に仕上げました。終戦から 9 年、ようやく戦後の食糧難を脱し、燃料供給も安定して、庶民が家族や友人同士で汽車や観光バスの旅を楽しむことが、少しずつできるようになってきた昭和 29 年の大ヒット曲。

出来事年表（昭和 20～29）

昭 20(1945)　東京大空襲　沖縄戦　原爆
ポツダム宣言　玉音放送終戦　食糧難
進駐軍放送開始　ジャズ復活

昭 21(1946)　東京裁判開始
日本国憲法発布　第一回総選挙
紅白歌合戦の前身「紅白音楽試合」放送

昭 21(1946) ラ・メール

昭 22(1947) 東京ブギウギ　ブギブーム
NHK「のど自慢素人音楽会」放送開始
日本国憲法施行　第一回国会
ベビーブーム(昭和 22 年～24 年)

昭 23(1948)　美空ひばりデビュー
東京裁判判決　三社祭再開

昭 24(1949) 長崎の鐘　あざみの歌
法隆寺金堂壁画焼失　サザエさん連載
湯川秀樹ノーベル賞受賞　ラテンブーム

昭 25(1950)　朝鮮戦争勃発　金閣寺全焼
特需好景気　舶来音楽ジャズブーム

昭 25(1950) 愛の讃歌(ピアフ)
進駐軍放送(WVTR)からヒット曲(ナット・キング・コール「モナリザ」など)

昭 26(1951)　サンフランシスコ講和条約
日米安全保障条約締結
日本初の民放ラジオ局開局
第1回「紅白歌合戦」スタジオから放送

昭 27(1952) お祭りマンボ
愛の讃歌(越路吹雪)
江利チエミ「テネシー・ワルツ」でデビュー
NHKドラマ「君の名は」放送開始
民放開局ラッシュ　神田祭再開
手塚治虫「鉄腕アトム」連載
砂糖・小麦の統制撤廃　戦後初の菓子博
燃料油統制撤廃(燃料不足が解消され、はとバス一日周遊コースはじまる)

昭 28(1953)　NHKテレビ放送開始
朝鮮戦争休戦　米軍キャンプ縮小
ジャズ喫茶開店相次ぐ　ジャズブーム
雪村いづみ「想い出のワルツ」でデビュー

昭 29(1954) 高原列車は行く
三種の神器(電気冷蔵庫、洗濯機、テレビ)
自衛隊発足　力道山ブーム　第五福竜丸被爆　映画「ゴジラ」第一作公開

■第三部　昭和 30 年代　～高度経済成長の幕開け　欧米文化と豊かさへの憧れ～

1. 慕情・・・・・昭和 30(1955)　作詞:P.F.ウェブスター　作曲:S.フェイン　編曲:河西保郎

1955 年公開のアメリカ映画「慕情」の主題歌。終戦後の香港を主な舞台とし、勤務医ハン・スーインの恋人でアメリカ人新聞記者マーク・エリオットが、ほどなく起こった朝鮮戦争に派遣され戦死。戦争に引き裂かれた男女の悲恋物語。朝鮮戦争休戦から 2 年ほどで映画が公開され、実話が元になっています。1955 年はロックンロールがヒットチャートを制する中、「慕情」がアカデミー賞歌曲賞を受賞。正当派コーラスグループ「フォア・エーセス」最後の大ヒットとなり、映画音楽史上の名作といわれます。

2. オーラリー・・江戸末期(1861)　作詞:W.フォスディック　作曲:G.ポールトン　編曲:西脇久夫
ラブミーテンダー・・・・昭和 31(1956)　詞:エルビス・プレスリー　曲:G.ポールトン

1950 年代半ば、ギターを抱えて歌うロックンロールの出現に世界中の若者が熱狂。日本でも昭和 33 年(1958)の第一回日劇ウェスタン・カーニバルでロカビリーブームは最高潮に。ロックンロールの出現は、続くエレキ・GS・フォークブーム、ニューミュージックなどの原点となりましたが、当時の大人たちは「不良の音楽」とし、ロックンロールの創始者のひとり、エルビス・プレスリーもそうしたレッテルを貼られましたが、「ラブミーテンダー」のヒットによって評価が劇的に変わりました。映画「ラブミーテンダー」の舞台は南北戦争(1861～65)の時代。当時の兵士たちの愛唱歌、故郷に残して来た恋人を思う歌「オーラリー」をリメイクしたのが「ラブミーテンダー」で、プレスリーの歌声は大人たちにも認められるようになりました。日本でも翌年、雪村いづみが早くもカバー。青春隊では、この原曲の「オーラリー」を美しいハーモニーで歌います。

3. ムーン・リバー・・・昭和 36(1961)　詞:J.マーサ　曲:H.マンシーニ　編:河西保郎

1961 年公開のアメリカ映画「ティファニーで朝食を」の主題歌。主演のオードリー・ヘプバーンが歌い、同年のアカデミー歌曲賞受賞。グラミー賞では最優秀レコード賞など 3 部門を受賞。原作者の小説家トルーマン・カポーティは映画化にあたりマリリンモンロー主演を条件に了承しましたが、マリリンモンローが断ったため、急きょ主演に決まったヘプバーン用に脚本が書き直されました。主題歌「ムーンリバー」も原作に登場する歌とは中身が異なり、まさにヘプバーンのために書かれたもの。もしも主役がマリリンモンローだったら、「ムーンリバー」は生れなかったのです。1961 年といえばソ連が地球一周有人宇宙飛行を果たし、宇宙開発に後れをとったアメリカが、1960 年代の内に人類を月に送り込む「アポロ計画」を宣言。ムーンリバーの曲名には、月に寄せるアメリカの壮大な夢が込められていたのかもしれません。

4. 北上夜曲・・・昭和 16(1941)　※昭和 36(1961)　詞:菊地規　曲:安藤睦夫　編:杉本龍之

北上川の月の風景の中に蘇る初恋の思い出を胸に秘め、人生を強く生きる決意を歌ったこの曲がヒットしたのは、ムーンリバーと同じ昭和 36 年。しかし作られたのは 20 年も前、水沢農学校生の菊地規(のりみ)が作詞し、八戸中学校生徒の安藤睦夫が作曲。十代の無名の若者が作ったこの曲は戦時中も密かに歌い継がれ、戦後の経済成長期、若者が故郷を離れて都会へと向かった時代には、作者不明のまま歌声喫茶で盛んに歌われました。そこに着目したレコード会社が作者を探し、レコード化、映画化を機に大ヒット。レコード会社専属の職業作家の手によらない曲が広まったことは、その後、若者による自作自演のフォークソングが台頭する先駆けと言えるかもしれません。

出来事年表（昭和 30～39）

昭 30(1955)　**アメリカ映画「慕情」**
神武景気はじまる
歌声喫茶　新宿「カチューシャ」「灯」開業
アメリカ＝ロカビリー、ロックンロール出現
(アメリカ映画「暴力教室」の主題歌「ロック・アラウンド・ザ・クロック」がロックンロールの始まりといわれている)

昭 31(1956)　**慕情(雪村いづみ)**
アメリカ映画「ラブミーテンダー」
水俣病発覚
経済白書「もはや戦後ではない」

昭 32(1957)　東京都が都市人口世界一に
小中学校生徒増で「すし詰め教室」問題
ラブミーテンダー(雪村いづみ)

昭 33(1958)　岩戸景気はじまる
東京タワー完成　1 万円札発行
長嶋茂雄巨人軍入団
ラジオ東京TVで「月光仮面」放送開始
第一回日劇ウェスタン・カーニバル。ロカビリーブーム最高潮に。続くアメリカンポップス、エレキ、GS、フォークブーム、ニューミュージックなどの原点

昭 34(1959)　60 年安保闘争はじまる
皇太子ご成婚　テレビ一気に普及
「少年マガジン」「少年サンデー」相次いで創刊　伊勢湾台風

昭 35(1960)　カラーテレビ放送開始
ダッコちゃんブーム

昭 36(1961)　**ムーンリバー**
アメリカ映画「ティファニーで朝食を」公開(10 月)日本では 11 月公開
北上夜曲
ソ連ガガーリン少佐地球一周有人宇宙飛行「地球は青かった」　大相撲柏鵬時代
レジャーブーム(スキー、登山)

昭 37(1962)　国産第一号原子炉点火

昭 38(1963)　人気TVアニメ放送はじまる
「鉄腕アトム」「鉄人 28 号」「エイトマン」「狼少年ケン」など　吉展ちゃん事件
ケネディ大統領暗殺ジョンソン大統領就任

昭 39(1964)　気象庁富士山レーダー完成
新幹線開業　東京五輪開催

■第四部　昭和 40 年代から昭和の終わり（64 年）まで
～モーレツからビューティフルへ～

5. ブルーシャトー・・昭和 42(1967)　作詞:橋本淳　作曲:井上忠夫　編曲:青島広志

ブルー・コメッツの大ヒット曲。日本レコード大賞を受賞。洋楽的リズムと、四七抜き短音階の和風旋律の組み合わせが当たり、当時、一世を風靡したグループサウンズ(GS)の多くがこの路線に続きました。洋楽的な新しいものを目指していた作曲者の井上忠夫は、「この曲が大ヒットしてしまったことがGSにとって悲劇だった。結局は歌謡曲に飲み込まれてしまった」と、後年悔やみましたが、一方で井上の死後ジャッキー吉川は「GSはいい曲をたくさん残した。大ちゃん(井上)はそれを誇ってよかったんだ」と語っています。果たしてGSが合唱になるのか？青春隊の取り組みで最初に抱いた不安は吹き飛び、名曲はどんなスタイルに編曲されても輝きを失わず、それこそが名曲なのだと実感。

6. 夜霧よ今夜も有難う・・・昭和 42(1967)　作詞・作曲:浜口庫之助　編曲:宇田川安明

「夜霧よ今夜も有難う」は、アメリカ映画「カサブランカ」を翻案(外国作品の地名・人名などを自国に合わせて翻訳)した、石原裕次郎と浅丘ルリ子主演のムードアクション映画。大ヒットの主題歌は、映画スターによる、昭和のムード歌謡を代表する曲。当時も今も、これを歌う男性は皆、憧れの裕次郎になりきります。

7. 知床旅情・・・・・・・・・・・・昭和 45(1970)　作詞・作曲:森繁久彌　編曲:青島広志

森繁久彌が映画ロケで知床半島羅臼に長期滞在した最終日、現地の歌「オホーツクの舟唄」に歌詞をつけ「さらば羅臼よ」として披露したものを、後に改作して「知床旅情」として発表。大阪万博を機に個人旅行が盛んになり、リュックを背負った若者の貧乏旅行がブームに。旅先での出会いと別れを歌った「知床旅情」が、時流に乗って大ヒット。

8. しおさいの詩（うた）・・・・・昭和 46(1971)　作詞・作曲:小椋佳　編曲:河西保郎

青春の光を追いかけもせずに、流れて行った時よ・・・・。小椋桂、27 歳の時の作品です。当時の若者が書いた詩が、今、我ら老境の胸に迫ります。この曲が静かに、しかし長く歌い継がれているのは、世代を超えて心に響く歌だから。昭和の時代には、そんな歌がたくさんありました。

9. 千曲川・・・・・・・昭和 50(1975)　作詞:山口洋子　作曲:猪俣公章　編曲:杉本龍之

千曲川は万葉の頃から多くの詩歌に歌われ、島崎藤村の「千曲川旅情のうた」「小諸なる古城のほとり」の舞台でもあります。高野辰之作詞の「朧月夜」は、飯山で小学校教師をしながら書かれたもの。青春隊は結成以来ほぼ毎年、長野県飯山市の「朧月夜音楽祭」に参加し、合唱交流をしています。一面の菜の花畑の中、野外舞台の眼下には、曲がりくねった千曲川。それはまさに、日本の原風景です。

10. 愛燦燦・・・・・・・・・・・・・昭和 61(1986)　作詞・作曲:小椋佳　編曲:信長貴富

雨潸々(さんさん)とこの身に落ちて　わずかばかりの運の悪さを恨んだりして・・・
風散々(さんざん)とこの身に荒れて　思い通りにならない夢を失くしたりして・・・
愛燦々(さんさん)とこの身に降って　心密かなうれしい涙を流したりして・・・

誰もが遭遇する日常のちょっとしたつまずきや喜びの風景が、少し古風で少し今風な美しい言葉で綴られています。太陽のように暖かい「家族愛」をテーマとしたCMソングとして生まれました。「川の流れのように」と並んで、美空ひばりの“人生歌”を代表する曲。

出来事年表（昭和 40～64）

昭 40(1965)　歌声喫茶全盛から衰退へ
アメリカ・ジョンソン政権、前年のトンキン湾事件を口実にベトナム戦争に直接介入
昭 41(1966)　ビートルズ来日　いざなぎ景気
新三種の神器(カラーテレビ、自動車、クーラー)　日本の人口一億人突破
昭 42(1967) 夜霧よ今夜も有難う　ブルーシャトー　GS全盛
フォークブーム(60～70 年代フォーク)
昭 43(1968)　小笠原諸島返還
大学紛争激化　三億円事件
日本の GNP 自由経済国で 2 位に
「巨人の星」テレビ放送開始
昭 44(1969)　アポロ 11 号月面着陸
東名高速道路が全面開通
「8時だヨ！全員集合」大人気
昭 45(1970) 知床旅情　大阪万博
よど号ハイジャック　三島由紀夫事件
昭 46(1971) しおさいの詩　カラオケ発明
昭 47(1972)　沖縄返還　札幌冬季五輪
高松塚古墳壁画発見　浅間山荘事件
日本列島改造論で土地ブーム地価高騰
昭 48(1973)　オイルショック　金大中事件
昭 49(1974)　狂乱物価　ベルばらブーム
昭 50(1975) 千曲川　沖縄海洋博開催
サイゴン陥落ベトナム戦争終結
昭 51(1976)　ロッキード事件表面化
昭 52(1977)　日本航空ハイジャック事件
昭 53(1978)　新東京国際空港開港
昭 54(1979)　インベーダーゲーム　口裂け女
昭 55(1980)　漫才ブーム　原宿竹の子族
昭 56(1981)　スペースシャトル初飛行
昭 57(1982)　東北・上越新幹線開業
昭 58(1983)　東京ディズニーランド開業
昭 59(1984)　ロス疑惑　グリコ・森永事件
昭 60(1985) 日航ジャンボが御巣鷹山に墜落
昭 61(1986)　愛燦燦
バブル景気(～平成 3 年)　地価狂乱
チェルノブイリ原発事故
昭 62(1987)　石原裕次郎死去
昭 64(平 1)(1989)　昭和天皇崩御
手塚治虫、美空ひばり死去